

令和6年度 県立太田西山高等学校自己評価表

目指す学校像	1 人間力を高め、将来の夢を実現する学校 2 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の完成を目指す学校 3 自ら学び続ける力の育成を目指す学校 4 地域に愛され、信頼される学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	人間力を高め、地域を支え活躍する人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	主体的に学び続けることのできる生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>生徒の 87%が、各教科の学習指導に関して様々な工夫がなされていると感じており、85%が授業はわかりやすいと考えている。生徒は授業に前向きな態度で取り組んでいるが、家庭学習を行っている割合は 68%であり、定期考査等では基礎学力の不足や継続的な家庭学習の不足が見られる。よって ICT の利活用等を通じて個別最適な支援を行い、家庭学習を習慣化させ、探究的な視点からの授業改善を充実させていく。進路指導については保護者等の 83%は充実していると感じており、生徒の 91%は、将来的進路に関しての面談や指導が十分に行われていると感じている。今後は社会とのつながりを意識したキャリア教育を推進していく。生徒指導の面では保護者等の 46%が本校生の通学マナーをあまり良くないととらえ、47%が挨拶もあまり良くてはいないと感じている。よって全</p>	1 探究活動等による生徒の資質・能力の向上 2 キャリア教育の推進による、生徒一人ひとりに適した進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に即した授業展開を通して、基礎的知識及び技能の向上と学習意欲の向上に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ①ICT の利活用等を踏まえ、深い学びを実現するための授業改善の推進。 ②基礎的な知識および技能の定着と、探究活動による思考・判断・表現する力の育成。 ③ICT 教育推進委員会を中心とした、授業における ICT を活用した授業展開と家庭学習の定着。 <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細かな進路指導を充実することで、生徒一人ひとりに適した進路の実現に努め、生涯にわたって充実した生活を送るための基盤を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ①ライフスキル教育を基盤としたコミュニケーション力ならびにキャリア教育の充実。 ②キャリアパスポートを活用した自己分析力や自己管理力の育成。 ③多様な進路の実現に向けた進路情報の提供や組織的で体系的な進路指導の促進。 	B B

別紙様式2（高）

<p>職員の共通理解のもと、地域、保護者等と連携しながら個に応じた指導を行っていく。そして問題行動の未然防止に努めていく。特別活動においてはコロナ禍で定着したオンラインによる集会を継続し、学校行事や生徒会活動を内容を精選して実施した。ライフスキル教育で培った力を発揮させるべく、生徒の主体的な活動を支援していく。その際キャリアパスポートを有効に活用して、組織的に対応していく。働き方改革では時間外在校時間の月平均が18時間12分、45時間超過者の割合は0.0%であり、数値的目標は達成した。完全退庁時間（19時）は概ね守られているが、定時退勤日（月曜日）が徹底されていないため、管理職による声かけや個別面談を引き続き行っていく。また業務の連絡や報告、各種調査等においてICTを積極的に活用するとともに、業務負担の均一化を図り、業務内容の精選を継続していく。</p>	<p>3 生徒一人ひとりを大切にする生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導と、問題行動の未然防止を重視した指導により、生徒の「自律」から「自立」を育む。 ①問題行動の未然防止を重視した、学校内外における組織的な指導の推進。 ②全教職員による一体感とスピード感をもった指導体制の構築。 ③他の機関と連携した、個に応じた生徒支援の推進。 	A
	<p>4 シティズンシップ教育の推進による、主体的に社会の形成に参画する力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスキル教育を通して、自主的・自律的な態度の育成に努める。また、特別活動を通して、集団の一員としての自覚と責任に基づく規範意識の高揚と、課題を発見し、他者と協働して解決する能力を育み、社会の形成に参画できる資質・能力を養う。 ①生徒の主体的・自主的なHR活動・生徒会活動・学校行事等の支援。 ②カウンセリングマインドをもって傾聴する個別面談や教育相談体制の充実。 ③シティズンシップ教育の充実により課題解決に向けた主体的な活動の支援。 	B
	<p>5 地域、保護者等との交流・連携による教育活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を活用して、地域への理解や地域の課題を探究する。また、地域に信頼される学校を目指して、地域の方や保護者等と連携し、理解が得られるように努める。 ①保護者等との緊密な連絡と連携。 ②中学校訪問や学校説明会及びHP等による情報の発信。 ③探究的な学習の時間において地域の方との連携による地域理解の促進。 	A
	<p>6 ワークライフバランスを重視した働き方改革の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校時間において「月平均15時間以内」と「月平均45時間超過者の連続ゼロ」を目指し、業務の効率化と精選ならびに業務負担の均一化を目指す。 ①定時退勤日および完全退勤時間遵守に向けた声かけと個別面談の実施。 ②ICTを活用した業務の効率化（各種調査等のICT化）とICT教育の推進（反転学習や確認テストの配信等）。 ③業務内容の精選と負担の均一化の促進。部活動時間の遵守に向けた声かけと個別面談の実施。 	A

別紙様式2（高）

	7 ICT の利活用等を踏まえた深い学びを実現する授業改善の推進	・生徒による授業評価を活用し、授業改善を促進する。以下①～③が数値目標。 ①「この授業を通して、知識や技能（技術）が身に付いた」平均 3.5 以上。 ②「この授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」平均 3.5 以上。 ③「授業の目的が明確で、授業内容がわかりやすく工夫され、興味関心が向上した」平均 3.5 以上	B
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価
国語科	国語の基礎学力の定着	①基礎的な言葉の知識の定着と、言語活動による思考・判断・表現する力の育成。	A
		②生徒用タブレットを効果的に活用し、授業内や家庭学習で学力の定着を図る。	B
		③積極的な進学課外とその充実、定期的な成績向上課外の実施。	B
	生徒が主体的・対話的に学習するための授業改善	①主体的・対話的に学べる教材、指導内容の研究及び授業準備の徹底。	B
		②生徒用タブレットを効果的に活用し、授業内や家庭学習で学力の定着を図る。	B
		③授業評価で、「授業を通してできなかったことができるようになった」平均値 3.5 以上を目指す。	B
	読書の活動の推進	①朝の 10 分間読書の時期に併せた図書館との連携と利用促進、生徒の読書の機会を増やす。	B
		②生徒の図書館利用（授業での利用も含む）年間 2 回以上を目指す。	B
		③授業を通して、読書の活動を推進し、生徒の主体的・対話的な言語活動を充実させる。	B
地歴公民科	基礎学力の定着と向上	①教科内容を精選し、学習意欲を重視したカリキュラムマネジメントを実施する。	A
		②グーグルフォーム・クラスルーム等を効果的に活用することで家庭学習を行いやすい環境づくりを進める。	B
		③授業の目的が明確で、内容がわかりやすく工夫された授業を実施する。	A
	社会的事象について学ぶための技能の習得	①アクティブラーニングの手法を取り入れ、主体性を重視した学習活動を実践する。	B
		②ICT 機器などを効果的に活用し、インターネットをはじめ、さまざまな情報収集のメリット・デメリットについて理解させる。	B
	シティズンシップ教育の推進	①自分たちの課題を話し合い、課題解決に向けた主体的な活動を授業内でおこなう。	B
		②現代的諸課題について探究し、地域の課題を見つける活動を通じて社会に参画する姿勢を養う。	B
数学科	分かる授業のための工夫	①十分な教材研究の上、学習内容の精選により学習意欲の向上を図る。	B
		②電子黒板やタブレット端末を活用し、各単元の視覚的な認識の充実及び深い学びの達成を目指す。	B

別紙様式2（高）

数 学 科	基礎学力の向上	①定期考査毎に課題（ワークブックやプリント等）を提示し、学習習慣の改善を図る。	A		
		②授業プリントを作成し、問題演習と振り返り学習に活用する。	B		
	学び直しの充実	①小テストや単元ごとのまとめプリントを活用し、学び直しの事項や日々の学習内容の定着を図る。	B		
		②検定試験や進路対策をはじめとした、生徒の進路希望に合わせた課外学習を計画的に実施し、数学的な力を伸ばす指導を徹底する。	B		
理 科	基礎学力の向上	①小テストを実施し、各単元ごとに知識の定着を図る。	B	B	・実験室においてのICT機器が活用できるように整備する ・より細かな小テストの実施 ・ICTを用いての身近な事例と合わせての学習 ・評価方法の確立 ・ペーパークラフト作製の他科目への応用
		②ふりかえりとして授業内容を文章としてまとめることをとおして、表現力の育成を図る。	A		
	「わかる授業」の実現に向けた工夫	①ICT機器を活用し、デジタル教材と身近な事例を提示することを有機的に組み合わせ、科学への興味関心を高める。	B		
		②実験・観察を適切かつ効果的に実施し考察する場面を多く設ける。 ③探究活動を取り入れ、レポート作成などの言語活動を取り入れる。	B B		
保健 体 育 科	授業改善	①各科目において教材の共有、評価方法の確立を実施する。	B	B	年間を通して大きなケガや事故なく、授業を展開することができた。主体的に学べるような手立ての工夫が必要である。次年度も感染症対策に注意しながら授業展開する。
		②生徒授業アンケート等を活用し、自身の授業改善に向けて取り組み、授業評価3.5以上を目指す。	B		
	保健体育の授業の充実	①運動の楽しさや喜びを十分に味わうことができる授業を開く。 ②授業や講習会を通じてAEDの正しい使い方を習得させる。 ③ICT機器を活用しながら、技術の向上について自ら分析し考えさせる授業を開く。	B A B		
芸 術 科	生徒の体力向上への意識	①体力テストの結果を活用し、年間を通じて補強運動を行い体力を向上させる。	A	B	・題材の連続性を意識した授業展開の工夫をする。 ・ICTの効果的な活用を考える。
		②運動量を確保するための体育教材や授業形態の工夫・改善をする。	B		
	特色ある体育的学校行事	①種目選択の成果を示す場として、スポーツフェスティバルを計画的に実施する。 ②集団の和を示す場として、集団行動を年間を通して実施する。	B B		
芸 術 科	知識・技能の習得	①基本的な技法を体得し、各自の作品を鑑賞・発表し合うことができる。	A	B	・題材の連続性を意識した授業展開の工夫をする。 ・ICTの効果的な活用を考える。
		②ICTを活用した授業展開の工夫し、知識・技能の定着を図る。	B		
		③授業評価で、「この授業を通して、知識や技能が身に付いた」平均値3.5以上を目指す。	A		

別紙様式2（高）

芸 術 科	思考力・判断力・表現力等の育成	①歴史的価値や、芸術性の高いものを広く鑑賞し、作品を評価する能力を養う。	B			<ul style="list-style-type: none"> 教員間におけるICT活用度の差を縮めていくため、そして、科全体でより良い授業作りに取り組んでいくため、相互授業参観や教科会等における情報共有を活発化させる。 基礎学力を定着させ、生徒の自己肯定感を高めることによりどの学年の生徒も、より前向きに授業に参加できるよう、ワークシート等の各種教材や、進学課外や成績向上課外を充実させる。 英語に関連する各種検定については、積極的な広報活動による生徒への周知はもとより、特に、特進コースの生徒を中心とした意識の涵養を図り、より多くの生徒がチャレンジできるよう支援を行う。
		②個人やグループでの探求活動を入れ、思考・判断・表現する能力を育成する。	A			
	主体的・協働的な幅広い活動の取り組み	①教材教具の事前準備、遅刻や欠席をなくす基本的な態度や姿勢を養う。	A			
		②生徒が主体的に授業に参加し、自ら表現技法を工夫できる能力を養う。	B			
		③アクティブラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を研究する。	B			
英 語 科	基礎学力の定着	①小テストを定期的(概ね各課終了後)に実施し、生徒の基礎学力と学習習慣の定着を図る。	B			<ul style="list-style-type: none"> 教員間におけるICT活用度の差を縮めていくため、そして、科全体でより良い授業作りに取り組んでいくため、相互授業参観や教科会等における情報共有を活発化させる。 基礎学力を定着させ、生徒の自己肯定感を高めることによりどの学年の生徒も、より前向きに授業に参加できるよう、ワークシート等の各種教材や、進学課外や成績向上課外を充実させる。 英語に関連する各種検定については、積極的な広報活動による生徒への周知はもとより、特に、特進コースの生徒を中心とした意識の涵養を図り、より多くの生徒がチャレンジできるよう支援を行う。
		②実用英語技能検定等の各種検定試験の受検を促し、英語運用能力のさらなる向上を図る。	C			
		③進学課外を充実させるとともに、成績向上課外を積極的に実施する。	A			
	分かりやすい授業	①ICTツールを活用し、ワークシート等の各種教材を教員間で共有する。	B			
		②ALTとの授業、及び異文化交流講座や英語運用力講座を通して、英語や、異文化への関心を深めさせる。	B			
		③生徒による授業評価において、「この授業を通して、英語や海外の文化に対しての興味や関心が高まった」と答えた生徒の評価平均が3.5以上になることを目指す。	C			
	英語への興味を促す	①ICTを活用して生徒の学習時における視覚的・聴覚的な効果を狙うと同時に、生徒自身が各種ツールを適切に使用できるようにすることで、生徒の深い学びに役立たせる。	B			
		②辞書アプリDONGRIの導入・活用により、体系的な学習の実施を図る。	B			
		③英語4技能の習得のため、パフォーマンステスト等を活用し、生徒の主体的・対話的な言語活動を充実させる。	B			
家庭 科	自立に必要な基本的知識と技能の習得	①生徒が主体的に取り組むことのできる適切な教材を提供する。	B			<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を目指し、ICT教材を活用した反転学習を推進していく。 校内活動だけでなく校外機関への作品参加などを促し、主体的な課題解決学習活動へとつなげていく。
		②ICT教材を活用した反転学習を行い、基礎的内容の定着を図る。	A			
		③施設・設備の安全管理に配慮し、実習を実施する。	A			
	自らの生活の向上を図る力と、実践的な態度の育成	①ホームプロジェクト学習を通して、思考・判断・表現する力の育成に努め、主体的に自らの生活課題の解決を図ろうとする態度を育てる。	B			
商業 科	基礎学力の向上を目指しかかる授業を展開する	①商業を初めて学ぶ生徒に対して分かりやすい言葉・表現で授業を行い、苦手意識を持たせないよう工夫する	A			<ul style="list-style-type: none"> 企業紹介動画制作に代わる企画を計画する。 伝統文化の授業をより充実させる。
		②自らが調べたり、家庭学習に取り組みやすいような宿題・課題の出し方を工夫する。	B			
	規範意識の向上	①あいさつの仕方など、授業を通して規範意識の向上を図る取り組みを行う。	A			
	地域の特色を活かした授業	①インターンシップや販売実習・企業紹介動画作成などで、地域企業との交流を図る。	A			

別紙様式2（高）

商業科		②伝統文化を意識し、生け花や着付けの学習をとおして日本らしさを学ぶ授業を積極的に行う。	A		
	ICT機器の活用	①キーボードの入力練習から始まり、ICT利用の検定試験受験に向けた取り組みを行い技術の向上を図る。	A		
		②課題解決型学習の最終目標をプレゼンテーションとしパワーポイントの利用技術の向上を図る。	B		
		③最新のパソコンでの授業を充実させると共に、パソコンでの試験・採点を積極的に行う。	A		
情報科	情報を活用するための知識や情報社会との関わりについて理解させる。	①教科書を読み、内容を確認するためのワークシートを活用する。 ②情報に関する最新のニュースや時事問題を授業で取り上げる。 ③コミュニケーションツールの利用法を学び、双向コミュニケーションを行う。	A A A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実習の時間をしっかりと確保し、タイピングをはじめとした生徒たちの情報機器を扱うスキルの向上を図る。 ・調査を行う課題を設定し、情報を扱う実践的な力を養うようにする。
	情報技術を適切かつ効果的に用いる技能を身に付ける。	①タイピングの練習を行い、スムーズに情報が入力できるようにする。 ②コンピュータ実習の時間をしっかりと確保し、操作に慣れるようにする。 ③授業中の実習を通して、表計算ソフトを用いたデータの処理方法を習得する。	A A A		
	情報社会の問題の発見・解決に向けて主体的な取り組みを行う。	①ICTを活用したアンケートなどにより、身近な問題についてデータを集めること。 ②デジタルツールを用い、学校生活の中でタブレット端末を活用する機会を増やす。 ③身近な問題についてレポートを作成する課題を行い、問題の分析力を身に着ける。	B B B		
福祉科	福祉について体系的・系統的に理解し、関連する技術の習得	①福祉に関する知識を福祉の具体的な事例と関連付けて理解し考察させる。 ②生徒の体験から考察、討論できるよう学習活動を展開する。	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設実習の事前事後指導、記録等をデジタル化する。 ・地域と連携し、探求的な学習を推進する。 ・様々な事例や外部機関と連携し、体験的、実践的な授業を展開する。
	福祉に関する課題の発見と、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力の養成	①福祉に関する具体的な事例を取り上げ考察や討論を行う。その上で様々な事例について実践に結びつく課題解決のための学習活動を行う。 ②介護職員初任者研修修了を目指し、理論と実践の繋がりある学習活動を展開する。	A A		
	主体的かつ協働的に取り組む態度の育成	①地域の福祉について学び、地域の福祉機関と連携しながら、協働して課題の解決に取り組む学習活動を行う。 ②介護職員初任者研修修了を目指し、主体的に学ぶ意欲を高める学習活動を行う。	B A		
	ICT機器の活用	①ICT機器を活用して生徒の学習時における視覚的・聴覚的な効果を狙う。 ②生徒がICT機器を活用し、社会課題解決やレポート作成の力を身につける。	B B		
教務部	教育計画の立案と円滑な運営	①本校生との実情に合致した、適切な教育課程のあり方について議論の場を設ける。 ②授業と学校行事の効果的かつバランスのとれた計画を立案する。	A B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒減・教員減に対応した教育課程への検討を行う。 ・生徒や保護者への連絡をペーパーレス化で効率化を図る。 ・ICTの利用状況に教員による差の解消を図るために校内研修の充実をはかる。
	学習活動等の充実	①公開授業や相互の授業参観、生徒による授業評価等を通して、授業の改善を図る。	A		
		②ICT教育推進委員会と連携し、授業等におけるICT機器の効果的な活用について職員に情報提供を行う。	B		
		③反転学習や意見の集約を図る手法の一つとしてICT教材等を活用し、生徒の基礎学力の向上を図るとともに思考力や表現力を育成する。	B		
	効果的な広報活動	①ホームページの充実および更新に努め、最新の情報を発信するとともにポスターや学校パンフレット等による情報発信を行う。	B		

別紙様式2（高）

		①パンフレットの刷新を図る。 ②中学校訪問や学校説明会の充実を図り、本校の魅力をさらに発信できるように努める。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・BOYD端末を活用したテストの実施を検討する。 ・生徒の端末を活用した考査の実施を検討する。 ・業務量が多いので業務の整理と平坦化を進める。 ・考査や追考査の精選 ・受検者増につながる広報の充実 ・読書の機会をより増やす。
	図書館の充実及び読書の推進	①HRや授業に関わる書籍を充実させ、図書館の利用促進を図る。 ②「朝の10分間読書」や授業での図書館の活用を通して、本に触れる機会を増やすとともに読書意欲を高め、自主的学習を支援する環境整備に努める。	A		
生徒指導部	未然防止の指導体制の確立	①定期的に生徒指導部会で生徒情報等を共有し、問題行動の未然に防止につながるように情報の共有を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援の視点を持ち、生徒の些細なSOSを察知できるように体制を整える。 ・自転車や原付の安全指導の徹底と自転車乗車時のヘルメット着用の努力義務などルール改定を周知する。 ・今年度に引き続き、スクールカウンセラーなどの専門家による教員研修を複数回実施する。
		②計画的に登校指導、校内外の巡回を実施し、挨拶の励行や身だしなみ指導の徹底を図り、生活指導を行う。	A		
		③スクールカウンセラーの積極的な活用を図り、さらに外部の機関とも連携しながら組織的に問題解決に取り組む。	A		
	適切な初期対応	①学校生活アンケートを毎月実施し、いち早く生徒の様子を把握する。	B		
		②外部から各専門家を講師として招き、いじめや特別支援教育に関する校内研修を複数回実施し、適切な生徒対応につなげる。	A		
	一体感のある指導体制の確立	①定期的に身だしなみ指導を実施し、全職員の共通理解のもとに高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。家庭とも連携や協力しながら改善を図る。	B		
		②生徒指導方針、特別指導の基本方針に沿った対応が行えるように努める。	B		
		③オンラインで各学年主任と情報を共有したり、生徒指導部で議論されている内容を、全職員と共有できるようにデータ化し、閲覧できるようにすることで、共通理解のもと、指導できるように努める。	B		
進路指導部	一人一人の進路希望先に応じた支援	①進路希望調査の実施に加え、個別面談等を通して生徒の進路目標の把握に努める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な入試制度に対応できるよう情報の収集を図り、的確な進路情報の提供に努める。 ・外部模試結果の分析と活用法の検討をすすめる。 ・学年と連携し、特に進学に対して組織的・継続的な指導体制の構築を図る。
		②各学校および企業、ハローワーク等と連携を図り、生徒個々の進路希望に応じた適切な指導に努める。	A		
		③外部模試のデータを共有し、各教科と連携しながら基礎学力の定着に努める。	B		
		④教科と連携した進学課外の実施を通して、基礎学力の向上と入学・入社試験に対応できる力の育成を図る。	B		
		⑤大学入学共通テスト対策および多様な入試制度に対応できるよう情報の収集を図る。	B		
		⑥各種資格取得やオープンキャンパス、一日看護体験などの参加を推奨する。	A		
	職業観・勤労観の育成	①進路ガイダンスや進路講話等の進路探求活動を通して、生徒の進路や職業意識の醸成を図る。	A		

別紙様式2（高）

	②キャリアパスポート（ポートフォリオ）を活用し、生徒個々のキャリア形成に向けた系統的な指導に努める。	B		
特別活動部	①「進路の手引き」や「進路だより」などを通じて、面接週間や保護者面談時などに適宜進路情報を提供する。	B		
	②進路資料室や進路揭示コーナーの充実に努め、的確な進路情報を生徒に提供する。	A		
	①生徒と協力した学校行事及び生徒会活動を実施する。 ②キャリアパスポートの有効活用により、生徒が主体的・意欲的に取り組める体験的活動を充実させ、企画・立案する。 ③学校行事及び生徒会活動の新校としての体制づくりに努める。	A B B	B	・野球応援では、応援委員や生徒会役員が中心となり、学校を盛り上げることができた。 ・源氏川清掃ボランティアには多くの生徒が参加した。
保健厚生部	①太田西山高の部活動及び地域と連携した活力ある部活動を展開する。 ②部活動の様子や活躍をホームページに掲載し、生徒たちの自己有用感を向上させる。	C B		・SCと教職員との情報交換や研修時間の確保。 ・情報のタイムリーな配信、共有をより密にしていく。 ・モップ交換時の担任から生徒への指示の徹底。 ・階段の内壁のはがれ落ちが気になります。
	①整理整頓・清潔などへの啓発を行い、環境美化に対する生徒たちの意識の醸成を目指す。 ②清掃指導を重点化し、生徒たちの快適な学習環境作りを目指す。 ③学校環境の安全点検を3回行い、修理が必要な場所は修繕を行う。	A B A	A	・SCと教職員との情報交換や研修時間の確保。 ・情報のタイムリーな配信、共有をより密にしていく。 ・モップ交換時の担任から生徒への指示の徹底。 ・階段の内壁のはがれ落ちが気になります。
	①各種検診の実施と学校医の指導のもと、保護者との連携を保ちながら、健康な生活を送る。 ②性の講演会等を実施し、生徒の心身の健全育成を図る。	A A		
	①地域と連携した避難訓練を実施し、具体的な行動を通して緊急時の対応に備える体制を作る。 ②防災に関する講話などを通して生徒たちが主体的に当事者意識をもつよう啓蒙する。	A B		
	①教育相談の充実、SCと担任等との情報交換の機会を図る。	B		
涉外部	①広報誌を発行・配付し、保健厚生に関する情報の提供・共有を図る。	A		
	①役員・委員会を円滑に実施し、早めの情報伝達・共有を図る。 ②関係分掌や学年との連携を緊密にし、協力体制を密にしていく。	A B	A	・PTA総会の実施方法を検討する。 ・本校PTA主催の行事への参加者増に向けての対策を考える。
	①校内親子研修会を実施し、研修の機会を充実させる。 ②役員・委員の方々には積極的に県北指導者研修会や生徒指導中央大会、その他、県内外の研修会等への参加を促す。	A A		
	①学校行事の記録に努め、PTA会報『太田西山』を通して、生徒の諸活動・PTA活動を知らせる。	A		
第一学年	①個別面談を通して生徒理解に努め、生徒情報を学年職員で共有する。 ②身だしなみ指導や登校指導を通して、規範意識を育む。 ③時間の厳守や挨拶の励行について、継続的に指導する。	B B B	B	・進路指導の継続・充実 ・規範意識の育成の継続 ・家庭学習時間の増加 ・一つ一つの行事にしっかりと取り組む
	①家庭での学習時間が増えるよう指導する。 ②英語検定、数学検定等の資格取得を励行する。 ③進路ガイダンスやタブレットでの調べ学習を通して、自身のキャリアについて考えさせ	C B B		

別紙様式2（高）

		る。		
社会の形成に参画する力の育成		①HR活動や探究活動のグループワークを通して、協働的に課題を解決する力を育む。必要に応じてスマートフォン・タブレット活用する。	B	
		②学校行事や部活動への参加を勧め、集団へ寄与する態度を育む。	C	
第二学年	マナーの向上	①身だしなみ指導や登校指導を通して、規範意識を育む。	B	B
		②挨拶や言葉遣いなどの礼儀作法の涵養を図る。	B	
	主体的な学習習慣の確立及び進路意識の高揚	①ICTの活用により、学習習慣の確立を図る。	C	
		②資格や検定試験の取得を励行し、それを支援する課外授業を展開する。	B	
		③進路ガイダンス等を通して、進路意識の向上を図る。	B	
	特別活動への積極的な参加と社会の形成に参画する力の育成	①学年行事や委員会活動への積極的な参加を促す。	A	
		②探究活動とHR活動を通して、協働的に課題を解決する力を育む。	B	
第三学年	生徒が主体的に進路決定に向けて思考し行動するキャリア教育の充実	①生徒が進路について自ら探究して進路決定できるような指導を実践する。	B	B
		②各種進路ガイダンスを活用して体系的な進路研究を促す。	B	
		③ICTを活用して進路に関する情報収集能力を身に付けさせる。	B	
	自律的な基本的生活習慣の確立と積極的に学習に取り組む姿勢の養成	①生徒及び保護者との面談を通じ、連携して心の教育の充実を図る。	A	
		②身だしなみや挨拶等の重要性を理解させて基本的生活習慣を確立させる。	C	
		③基礎学力を定着させて自己肯定感の向上を図る。	C	
	組織的で効果的に学年の運営が為される共通理解と協力分業の推進	①学年、学校と生徒及び保護者間の適切な報告・連絡・相談に努める。	B	
		②各教員同士が能力を十分に発揮できるような環境の形成に努める。	C	
		③学年全体で業務の内容及び課題を共有し分業を進める。	B	

※ 評価規準： A：目標を大きく上回る達成度である。 B：目標を上回る達成度である。 C：ほぼ目標どおりの達成度である。

D：目標を下回る達成度である。 E：目標を大きく下回る達成度である。

- ・生徒の進路実現に向けて、個別最適な進路指導を行うこと。
- ・ICTを活用して、進路指導を体系的に行うこと。

- ・受け答え、服装・頭髪等については、労力を要しますが、入学時に保護者も含めて指導を徹底していくことが肝要である。
- ・生徒支援が多い高校だからこそ、教員間の情報共有やコミュニケーションが欠かせない。組織として、また学年としての教員間の情報共有のあり方の検討が必要である。